

令和3年度第2回十日町市総合教育会議 議事録

1 日 時 令和3年12月24日(金) 午後1時30分～午後2時30分

2 会 場 十日町市役所 防災庁舎2階 大会議室

3 出席者 市長 関口 芳史
教育長 渡辺 正範
教育委員 庭野 三省
教育委員 浅田 公子
教育委員 廣田 公男
教育委員 渡邊 奈々子

説明者等

子育て教育部長	渡辺 正彦
文化スポーツ部長	金澤 克夫
教育総務課長	富井 陽介
教育総務課長補佐	山岸 正幸
学校教育課長	佐藤 研一郎
学校教育課指導管理主事	細木 久成
学校教育指導主事	郡司 哲朗
生涯学習課長	樋口 具範
生涯学習課長補佐	水落 巖
文化財課長	石原 正敏
スポーツ振興課長補佐	星名 知彦

事務局

総務部長	鈴木 政広
企画政策課長	田辺 貴雄
企画政策課長補佐	渡辺 隆之
企画政策課企画政策係長	酒井 潤

4 議 題 (1) GIGA スクール構想の実現及び ICT を活用した学びの実践について
(2) 公民館のコミュニティセンター化について
(3) その他

【配布資料】

次第

出席者名簿

座席表

資料1 GIGA スクール構想の実現及び ICT を活用した学びの実践について

資料2-1 公民館のコミュニティセンター化について

資料2-2 新たなコミュニティセンターイメージ

資料2-3 地域活動・生涯学習の企画&実施の事例

鈴木総務部長（開会）

これより、令和3年度第2回十日町市総合教育会議を開催いたします。要綱に基づきまして、本会議は公開で行われます。会議全体の時間は概ね1時間を予定しておりますので、よろしく願いいたします。

それでは、開会にあたりまして関口市長から挨拶をお願いいたします。

関口市長（開会挨拶）

本日は年末の大変お忙しい中、教育委員の皆様からは第2回総合教育会議にご参集いただき、誠にありがとうございます。

今年も残りわずかとなったわけですが、振り返ってみますと、今年こそと言うのは語弊がありますが、十日町市においてはコロナに様々な制約を受けて、様々な苦労があった年であったと改めて感じます。しかしながら、10月中旬には県内の警報もようやく解除され、ここしばらくは全国的に見ると収束傾向にあるわけですが、油断はできない状況であります。特に教育の現場においては、皆様大変ご苦勞されておりました、改めて感謝申し上げる次第であります。

ワクチンの方はしっかりと接種が進んでいるということで、喜んでおります。2回目の接種を終えられた方は約9割の89.4%まで来ておりました、これは非常にありがたいことでございます。年齢の若い皆様、12歳～19歳の2回目の接種を終えられた方も77.6%ということで、当初のアンケート結果などと比べましても、非常に高い接種率であり、保護者の皆様のご理解に感謝を申し上げます。今後も3回目の接種がスムーズに進みますよう調整を続けているところであります。

教育現場のコロナの状況は本当に大変であったと思いますが、感染者が発生してもクラスターには繋がっていなかったということで、皆様の適切なお対応に敬意を表します。引き続き、この件につきましてはご協力をよろしく申し上げます。

さて今日は、議題が2つあります。

1つ目は、「GIGA スクール構想の実現及び ICT を活用した学びの実践について」であります。令和2年度、タブレット端末の配布が完了したわけでありまして。すでに、学校での活用

が始まっていますが、どこまでこれを実のあるものにできるかどうか、私どもに課せられた大きな課題であると思います。「ランドセルがただ重くなっただけ」と言う方もいらっしゃいます。十日町市の場合には、まだ学校と家の間で行き来は始まっていないのかもしれませんが、ぜひひとつ、このことを教育委員会の皆様の真ん中に据えていただいて、しっかりと質の高い学びに結び付けていただきたいと思います。

2つ目の議題は、「公民館のコミュニティセンター化について」であります。これは、本当に大きなテーマと言っていると思います。県内の自治体を見ても、様々なご苦勞をされながらこの方向に進んでいるという自治体は少なくないです。公民館という組織をどのようにすればさらに活性化できるか、地域の様々な活動にどのように結びつけられるのかが重要なポイントであると思っております。この件につきましても、忌憚のないご意見を賜りたいと期待しております。

ふるさとを愛する子どもたちを増やしていくということが、我々の使命であります。そしてまた、十日町市で生まれ育って多様な文化に触れることができたこと、大人になってから喜んでいただけるようなまちづくりができればと思っております。教育委員の皆様には引き続き、教育行政の充実にお力添えを賜りますようお願いを申し上げて、開会の挨拶といたします。本日はよろしく願いいたします。

鈴木総務部長

ありがとうございました。総合教育会議における運営は、市長が本会議を招集することになってございます。以降の進行につきましては、関口市長からお願いしたいと思います。よろしく願いいたします。

関口市長

それでは、ここからは私の方で進行させていただきます。お手元の次第に沿って進めますのでよろしくお願いいたします。議題（1）「GIGA スクール構想の実現及び ICT を活用した学びの実践について」、事務局から資料の説明をお願いします。

（議題（1）「GIGA スクール構想の実現及び ICT を活用した学びの実践について」、佐藤学校教育課長が資料1に沿って説明を行う。（省略）

関口市長

ただいまの説明について、皆様にご意見をお聞きしたいと思います。いかがでしょうか。

浅田委員

12月10日に南中学校であった授業に私は参加できなかったため、渡邊委員から動画を見せていただきました。子どもと一緒に見たのですが、先生がICTをとてもうまく利用されていたためびっくりし、いいなと思いました。

関口市長

その授業は、今モニターに映っている写真と関係があるのですか。

佐藤学校教育課長

モニターに映している写真が、その授業の様子です。

浅田委員

新しいことを取り入れると、それに慣れるまでが大変です。使いこなせている先生はいいと思うのですが、慣れていない先生もいらっしゃると思うので、GIGA スクール構想の実践の際は、使いこなせていない先生にとって ICT が負担にならないようなフォローも一緒にお願いしたいと思います。

佐藤学校教育課長

教職員の指導力向上については、私どもも大変大きな課題として認識しております。先ほどお話しましたように、指導主事がおりますので、直接学校にお邪魔し、研修会を通して指導力を高めております。また、各学校で核となる ICT の教員を育成して、その方が中心となり、日々力をつけていただくということが大切ではないかと考えております。そのリーダーを育成することも視野に入れていきます。

関口市長

先生方のレベルがかなり違うということですね。今の話の観点でいくと、教員の皆様の研修の困難さといいますか、課題というのはどのようになっているのでしょうか。

佐藤学校教育課長

どこの学校も研修の時間を確保するのがなかなか難しいです。従いまして、失敗をすることもあるかと思いますが、授業を行いながら慣れる、とにかく慣れていくことを優先していただいております。非常に良い授業の実践がこれからどんどん出てくると思いますので、そういうものを紹介しながら進めていきたいと思っております。

渡邊委員

それに関連してなのですが、私も先日、南中学校の授業を見たときに非常におもしろいと感じました。参観として学校に行くのは非常に手間がかかるのですが、例えば授業の動画をどこかにアップロードし、他の先生方が自由な時間に参考として見るができるような使い方はいかかでしょうか。せっかくオンライン・ICT が活発になってきているところなので、可能な限りオンラインで行い、移動時間をかけずに先生方が学べる環境を教育委員会としても作っていかねばいけないと思っております。会議の度に集まると、先生方も移動と手間で時間がかかってしまうのではないかと少し思いました。そのため、オンラインを使った会

議や授業の参観など、教員と教育委員会が自分たちの仕事の事務レベルから、ICT の活用を始めていけばいいと考えています。

佐藤学校教育課長

ありがとうございます。ICT を活用した新しいスタイルの研修、これも私どもも検討させていただきたいと思います。国の方でもかなり、YouTube などを使って授業実践の動画を全国的に配信している状況でございます。そういうものもぜひ参考にさせていただきたいと思います。

関口市長

YouTube は非常に勉強になるかもしれないですね。個人的に見ることができますからね。

廣田委員

資料1の2ページ、「特別な支援を必要とする子供を含め、多様な子供たちを誰一人取り残すことなく」と文科省のリーフレットに書かれているとあります。この機器の良いところというのは、個人個人に違う情報、課題を配信できることだと思います。これによって不登校の子どもさんや、別室学習している子どもさんなどに、一緒に授業に入ってもらうことができます。例えば、別室学習している子どもさんというのは、1人ではいることができますが、隣に人がいるとパニックになってしまうことがあります。本当に多様な子どもさんがいらっしやると思うので、そういったところにぜひ ICT の活用をこれからしていければいいのかなと思っております。

いじめの問題なのですが、もうさっそく GIGA スクール構想で配布したタブレットがいじめに使用されたという報告が新潟県内でもあったようですし、全国でもあるようです。小学生ですと、おそらくスマホよりも先にタブレットに触れると思います。スマホを使いたいじめというのは高校生などではだいぶあるらしいのですが、タブレットがそのようなことに使われないようにしていく必要があると思います。タブレットは新しいツールです。スマホやタブレットというのは、大人になってから必ず日常的に持ち歩くツールとなっているため、その正しい使い方を学ぶ、教えるということも教育の1つだと思います。授業だけでなく、ぜひそういうことも教えていただければと思います。

佐藤学校教育課長

ありがとうございます。まず1点目の個別最適化の件ですが、もちろん不登校でなかなか教室に入れないというようなお子さんへの対応というのも大事にしていきたいと考えております。また、個別最適化の良さというのは、例えば今は学習進路が一斉に同じように進んでいるのですが、その中で少しつまずいて、なかなかそこから前に進めない子もいます。そういった子に適した教材を取る、すぐ出せるというところが今までと違うところなのかなと思います。また、その子の進捗状況を把握することも、ICT の活用により非常に効果が出

と考えておりますので、そのような両面で検討させていただきます。

2点目のいじめの件についてですが、特にネットによる誹謗中傷を含めたいじめというのは秘匿性が高くなかなか解決が難しいことがございます。ただこれもネットを使おうが、ICTを使おうが、人が嫌がることはしないということであるため、情報モラルを含めまして、道徳の中でも指導して参ります。いじめについては、先ほどお話しましたようにどのような状況かというのがなかなか掴みづらいところです。やはり面と向かって一緒に子どもと話をし、子どもたちの気持ちに寄り添いながら解決していかなければいけないと思いますので、また家庭のご協力も一層必要であると考えております。

庭野委員

私は、多分この中で一番 ICT に疎い者です。資料1の5ページ、下から2行目「論理的に考える力」というキーワードがあります。この力を育てていくには、どうしたらいいかということなのですが、私は今高校で週に13時間授業をしておりますが、論理的に考える力が極めて不得意といいますか、逃げようとする生徒がかなり多いです。学校便り、学級通信をみるとよく分かると思いますが、デジカメで写真を撮ってボンボン写真を張り付けて、そこに2・3行のコメントを添えるスタイルが多いと思います。先生方や校長が、じっくりと考えたような文章が減っていると考えています。同じように写真をべたべた貼って資料を作る場合にも、2・3行のコメントを添えるだけでは思考力は全くつかないと思います。今の高校生は2極化しています。長文のかけない子というのは、普段論理的思考から逃げているため、今後、面接、採用試験などの原稿用紙に800字や1200字を書く課題などにおいて、うまくいかない子が出てくると思います。その指導も高校では一生懸命頑張っていますが、とにかく短文主義だと、どんなに情報が入っても思考力が高まりません。トランプさんは、100何文字で政治を動かしていましたが、そのような思考では絶対に深まっていかないと思います。好き、嫌い、今日は遠足に行っておもしろかった、楽しかった、その程度の文章をいくら書いても、力にはなっていきません。ぜひ、思考力の中の論理的に考える力、これについてもう少し突き詰めてもらいたいと思います。

廣田委員

この論理的に考える力というのは、AIに関係してくると思います。AIがだいたい世の中に普及しておりますが、将来的には今の職業の40%か50%がAIにとって代わるのではないかというふうに言われております。AIに負けると結局のところ失業してしまうことになるので、AIには勝つ必要があります。AIに勝つには論理的な力がないといけません。AIが1番不得意な部分は、論理的な力のようなので、これからの教育の主体は、論理的な思考力をいかに大人になるまで、就職するまでに身につけるかということだと私も思っております。このICTを活用した学びの推進に、論理的に考える力を育んでいくと書いてありますが、これは紙ベースよりもICTを活用した方が論理的に考える力を教える時に良いという意味で記載されていると思っています。そのため、ぜひ、あまり将来的なことではなく、もう少し

短期的に十日町市の教育に取り入れていただければなと思っています。

関口市長

ICTを活用すると論理的に考える力つくという論理は、どのようなものですか。

佐藤学校教育課長

考える力、論理的に思考する力というのは、学校現場でも育てるのが非常に難しいのですが、育てなければならない力です。廣田委員からお話がありましたように、AI と人の決定的な違いは何かと聞かれたときに、それは論理的な思考であり、大事なところであると考えます。そこを目指していくわけでございます。

例えば、先ほどお話しましたように、算数や数学の中で統計の勉強をするのですが、その統計の勉強をしたときに、今までは「統計はこういうものなのか」で終わっていました。しかし、教科横断的な学習を進めることによって、それが例えば社会科の分析力に繋がっていくわけです。分析する力に、しっかりと繋がっていれば、当然考える力にもなります。

例えば情報を判断する力、遂行する力など様々な力を試していくこととなります。それを紙で行うことも当然できますが、デジタルの良さは、インターネットを使って情報を素早くたくさん集めることができることです。その情報の中には、必要な情報、必要ない情報を選択するという力も必要となってきますので、ICT の活用により情報を選択する機会をどんどん子どもたちに与えることができます。さらにその情報が本当に正しいのかどうか、これを子どもたち同士が話し合います。今までは子どもたちの意見を求める場合には、一斉に手を挙げて行って参りました。しかしなかなか手を上げられない、自分の考えを言うことができないという子どもたちもいます。自分の考えを表現することによって思考力というのはついていくはずであるため、これからは、挙手を出来ない子どもたちにとってもやりやすい環境をつくる、これが ICT なのではないかと思えます。

今映し出している画面の中で、「ロイロノート」というアプリケーションが出ており、このアプリを使って授業をこの間も南中学校で行って参りました。

—南中学校の授業の様子が動画で流れる—

各自が、タブレットをもって自分の考えを打ち込んでいた内容は、今までの授業であれば挙手をして意見を発表し、他の生徒にその意見についてどう思うかと、意見交換をしていました。それは会話でのコミュニケーションであり、これも大事な力ですが、今は「ロイロノート」を使って自分の考えを打ち込むと、先生の方で生徒に提出してと言うとすぐにデータが飛んでいきます。それをモニターで見せながらでもいいですし、また、子どものグループの中で出したものをすぐモニターで見ながら共有し、話し合うということもできます。時間の短縮にも繋がります。また、なかなか手を挙げて発言をするということが難しかった子たちにとっては、より自分の答えを人に伝えるという活動が増えていく可能性があ

ります。こういったことを通して、論理的な思考を深めていくことができると考えております。

関口市長

ICTのこの学びの推進というのは、まだ地に着いたばかりということで、これからが本当に真価が問われると思います。私どもも国からご支援いただき、大きな予算を配置したわけですが、さらに現場でもいろいろなご要望があると思います。例えば画面のソフトなどですが、それらなどをしっかりと揃えていきつつ、当たり前のように使える環境というのを1日も早く完成させたいと私どももそのように考えております。

渡邊委員

私も現場に行ったときに聞いたのですが、大型の提示装置が2分の1しかなく、先生同士で取り合いになっていることを耳にしたため、それがもっと潤沢に学校にあればいいと思いました。

また、格納庫が教室ごとにあると先生方はすぐ取りに行き、すぐ授業に使うことができますが、遠くにある格納庫まで逐一取りに行かなければならない状態です。休み時間を利用して取りに行ってもらっているのですが、やはり現場で使いやすいように、先生たちが自分でやりたいと思った授業をその場でできるような、そのような環境がもっともっと整っていこうと思っています。

関口市長

そのように努めたいと思っています。

それでは、他の議題もありますので、議題（1）につきましてはここで終わらせていただきたいと思っております。

それでは議題の（2）に進ませていただきます。議題（2）「公民館のコミュニティセンター化について」につきまして、事務局から資料の説明をお願いします。

（議題（2）「公民館のコミュニティセンター化について」、樋口生涯学習課長が資料2-1、資料2-2、資料2-3に沿って説明を行う。（省略））

関口市長

ただいまの説明について、皆様にご意見をお聞きしたいと思います。いかがでしょうか。

渡邊委員

私は結構前からこのお話には携わっていたのですが、デメリットはあまり感じられず、メリットの方が多いような気がしています。今は学校も先生の業務を改善する必要があるため、令和5年くらいから部活動が民間の方に移行される流れを作っていくところです。ぜひ

地域自治組織とコミュニティセンターがそのようなところの受け皿になったらいいなとすごく思っています。実際にやってみて、デメリットが出てくるのかどうかという心配はあるのですが、私はコミュニティセンター化にすごく賛成をしています。これからさらに様々な業務を、地域おこし協力隊の方も入って、学校や社会教育の連携をしながら進めていきたいと思っています。

樋口生涯学習課長

今ほどおっしゃった学校の問題、部活動の問題も含め、各地域や地域自治組織にはいろいろな課題があるはずですが、これらについて、準備期間中に洗い出しをしていくこととなります。地域自治組織だけではなく、我々行政と地域自治組織でいろいろな問題点を洗い出して、その問題点を1つずつ移行期間中に解決、協議していく形で進めたいと考えています。

渡辺教育長

若干の補足をさせていただきます。新しく公民館のコミュニティセンター化が進むということの1つには、地域と学校の関わりをさらに高めたいという考え、目的もあります。地域で活動している皆様の分野を学校教育の中で出していくコミュニティスクールを進めています。小中一貫教育としても非常に重要な動きであると考えています。さらに推進しやすくなるような環境を作っていきたいと考えており、生涯学習分野からのアプローチも学校分野の方にしやすくなるだろうと思います。

合わせて部活動について、社会体育の部分が大いなのですが、社会体育だけではなくて文化の部分もあるため、社会体育の現場としてもコミュニティセンターが活用できるという可能性が非常にあると考えています。これはしっかり進めていきたいと思っています。

廣田委員

私は基本的には賛成ですが、いくつか条件があります。1つは今話題になっておりました生涯学習について、これが公民館の時と同じようにきちんと行われるかどうかということでもあります。それについては、配置される市職員の事務分掌の中に「生涯学習の推進」という項目が謳われることがまず最低の条件であります。もう1つは、地域活動の活性化についてです。これについても、市職員が手伝うという説明が先ほどありましたが、事務分掌の中に「地域活動の支援」などをきちんと謳っていただくということが、市職員が動けるかどうかに関わると思います。謳わなければ動かなくなってしまうと思うので、これについてはきちんと謳っていただきたいと思っています。

1つ疑問点があります。物販使用・個人使用が「OK」とあります。長岡市の施設を一部参考にしているということなのですが、長岡市の条例には営利目的の活動の使用はだめだと書いてあると思います。そのため、このことについては、「OK」などと言う前に、もう少し慎重な検討が必要なのかなと思っています。行政というのは一度変えてしまおうとなかなか戻れないため、やって失敗したからまた公民館に戻すというわけにはいきません。スケジ

ユール化もされていますが、もっと慎重に進めていってほしいと思っております。

樋口生涯学習課長

生涯学習に関して言うと、今の状態を変えたくはない、ただこれ以上にやりたいというところが実はあります。今習い事が中心になっている公民館活動というものを、より地域で行うことができるようにしたいと思っております。地域のニーズは環境問題などいろいろあると思います。そういうところにも力を入れて、より生涯学習活動の推進を図っていききたいと思っております。

物販関係に関しましては、廣田委員のご意見もありますので、慎重に議論させていただきたいと思えます。現社会教育法の公民館の利用のところにおいて、偏りがなければ利用させてもいいというのが文科省の見解でありますので、現公民館でも利用はできる体制になっております。それを、公民館あり方検討委員会で議論した上で進めております。ただそうは言っても慎重な検討が必要であれば検討させていただきたいと思えます。

廣田委員

一言だけ追加をお願いします。物販というのは昔と違って、そこで物を広げて売るといった人はいないと思うのですが、塾を開かせてほしいという要望は今でもあると思えます。これについては可能な限りできるように進めていただきたいと思います。

庭野委員

私は渡邊委員とは考え方が少し違います。学校と公民館と考えたときには、確かにいいかもしれませんが、対大人、大人のことを考えたときには疑問があります。ウィズコロナ、アフターコロナなのかは分かりませんが、土日利用がかなり制限されています。果たして大人同士が公民館活動に積極的に参加できるのかどうかが一番疑問です。

今、確実にいろいろな集まりが減っており、サークルも後継者がいないためどんどん無くなっています。平日夜に行う活動もあると思えますが、活動は大体土日に行われます。そのときに、事前予約すればうんぬんと前に説明がありましたが、なかなか厳しいのかなと思えます。資料に「誰もが利用しやすい施設」と書いてあります。平日を2日休みにして、土日に開いている公民館の方が私は利用価値があると思えます。

樋口生涯学習課長

今ほどのご意見に関しては、今後の地域自治組織との調整の中で活かしていきたいと思えます。

浅田委員

私の住む地域は、すでにコミュニティセンターになっている西部会館があります。私は春からちょうど西部会館管理組合の役員になっており、引き継ぎの資料を見ました。庭野委員

のおっしゃるとおり、使用状況については、6年前の2015年は延べ人数で4,142人、2020年は1,150人と減少していました。これはコロナの影響もあると思うのですが、利用される方が固定化しており、新たな事業や計画を始められる方が少ないのだと感じています。コミュニティセンターなので、土日も関係なく利用できるのは良いと思います。

渡邊委員がおっしゃった学校との連携ですが、それについては本当にノータッチといたしますか、そのような考えが全くありませんでした。そのため地域のニーズ、問題点として学校との連携も取り組んでいけたらなと思いました。

鈴木総務部長

今ほどお話をいただきましたように、土日の利用は1番利用度が高いかなと思っており、管理体制をしっかりとさせながらやっていく必要があると思います。これについては、地域自治組織と話し合いながら体制を組んでいきたいと思っています。

学校との連携につきましても、実際に今、地域自治活動の中でいろいろな学校との取組を行っているところもあります。そういったものを発展させながら、より多くの地域の皆様から参加していただけるような、学校活動に興味を持ってもらえるような体制を作っていけたらなと考えております。これを機会に地域と学校の繋がりを、またさらに強固にしていかなければならないと思います。

庭野委員

少し話題が逸れるかもしれませんが、私は今大地の芸術祭に関係して地区公民館と連携し、どんどん仕事を進めており、また、個人的にといえば語弊があるかもしれませんが、行っている仕事があります。ぜひ地区公民館で大地の芸術祭を応援していくような取組をしてほしいです。すでに行っているところもあるかと思いますが、そうやって地域の輪を広げていくような方向性を打ち出してほしいです。それが結局共通の取組になっていき、地域全体が盛り上がると思っています。

渡邊委員

私も、同様にそう思います。地域課題を解決するために始まった大地の芸術祭です。地域課題を解決しようとしているそのコミュニティセンターと、もちろん住民の皆様、芸術祭を担当している観光交流課とうまく関わらないと地域課題の解決には繋がっていかないと考えています。庭野委員の意見に賛成です。

関口市長

芸術祭につきましてはご案内のとおり、担い手の1つとして地域自治組織が、非常に活躍している地域があります。具体的に言えば水沢地域などですが、そういったところはまさにキャッチボールがしっかりとできています。地域自治組織の方からこんなことをやりたい、この作家を取り上げて欲しいというような話が、ディレクターの方に行き、その中で例えば、

飯山線プロジェクトの土市駅・水沢駅のようなところに発展しています。そこについては地域自治組織の皆様が会場うんぬんも含めて請け負っており、まさに地域を盛り上げるために芸術祭をうまく活用している実践例であると思います。

当然地域自治組織の課題の中に、そうした文化的なものを活用していくというのがあるわけでございます。その中に公民館活動が入るのか、またそれをどのように組み立てるのかは地域自治組織の皆様のお考えだと思います。

来年また大地の芸術祭を行わせていただきたいと思いますし、そのようなところをうまく活用していただける例がさらに広がっていけばいいなと感じています。ディレクターの方にもそのようなところはまたお伝えして参りたいと思っています。

時間も少し押ししておりまして、私どものプランでは議題（3）「その他」に今の話題以外のことでも、少しお時間をいただきたいというふうに思っておりますが、5分しか時間はありません。従って議題（2）「公民館のコミュニティセンター化について」はこれを以って、議了させていただきます。最後に皆様の自由なご意見、この場でぜひ議事録に書いておいてほしいというものがあれば、ご意見いただきたいと思っております。

庭野委員

大地の芸術祭のことばかりで、すみません。私は今年の秋に、長野県大町の北川フラムさん監修の北アルプス国際芸術祭を、日帰りだったため全てではないですが見てきました。また群馬県中之条町の2年に1度ある中之条ビエンナーレというものも見てきました。やはり大地の芸術祭はどう考えても、この地域のすごいものであると思います。松代城を見てぶったまげて帰ってきました。

まだ市民の中には「大地の芸術祭なんて」という考え方の方がいます。正直に言って、十日町市・津南町が生きていくにはと言うと語弊がありますが、アピールをしていくには大地の芸術祭しかないという印象を私は受けています。ブログに上がっているのはすごいですし、とんでもないいろいろな人が来て有名人も来ています。それをもっと市民が知らないといけないと思います。子どもは見ていますので、知っています。知らないのは大人です。

関口市長

芸術祭に関して、最後に1つお話いたします。経団連の皆様から、経団連には3つの目標があると伺いました。1つ目は脱炭素、2つ目はDX、3つ目は地方との協創、地方との協創の中の少ない連携先の1つに大地の芸術祭実行委員会が今回選定されたというのがあります。経団連企業の皆様は250社ありますが、重厚長大産業ですごい企業ばかりです。その皆様の地方との協創のプログラムの1つとして、文化芸術の中からピンポイントで大地の芸術祭実行委員会を選んでいただいたということです。非常にありがたく思っております。

今後、芸術祭の在り様も含めて、そういう皆様との連携、そういった機会をさらに増やしていき、そういうところから市民の皆様が大きくアピールする機会というのも出てくるの

ではないかと思っております。

渡邊委員

突発的な意見なのですが、学校教育にミッション型地域おこし協力隊が入ると良いと私は思っています。様々な公民館事業やそういったところの連携など、大地の芸術祭を子どもたちが授業で学ぶためのつなぎ役として、ミッション型地域おこし協力隊が入ると良いなと思っています。

関口市長

ありがとうございます。松代地域の雪里留学に関してはミッション型地域おこし協力隊が今活躍されており、ギリギリの調整をされています。大地の芸術祭にミッション型地域おこし協力隊を配置することに関しても、学校教育の中でという非常にありがたいご意見だと思います。考えていく必要がありそうです。

ほかに皆様いかがでしょうか。ちょうど会議終了時刻に近づいて参りましたので、以上で議事を終了いたします。本当に貴重な意見をたくさんいただき、誠にありがとうございました。進行は事務局の方にお返しします。

鈴木総務部長

活発なご議論ありがとうございました。それでは、閉会の挨拶を渡辺教育長からお願いいたします。

渡辺教育長

委員の皆様、大変お疲れ様でございました。ありがとうございました。1時間はあっという間で、非常に内容のあるご意見、ご議論であったなと思っております。様々なご提言についてしっかり検討していきたいと思っております。

今日のテーマになっていた2件につきましては、学校教育そして生涯学習、2つとも新しい時代へ、新たな教育のステージに上がるための非常に重要なポイントであると認識しております。さきほど、AIとの勝負、共存、AIに勝たなければならないというお話がありました。そのために、そういった力のある子どもたち、そして大人が育っていく環境をつくっていくこと、勝負とはいえど完全にAIと共存するウィズAIの時代を、しっかりと生き抜く子どもたちを、これからも育てて参りたいと思っておりますので、今後ともどうぞよろしくをお願いいたします。ありがとうございました。

鈴木総務部長

ありがとうございました。以上で本日の会議を終了いたします。